

# 絹谷幸二芸術賞創設 次代担う才能発掘



絹谷幸二（9面に関連記事）

対象作家は40歳以下の日本国内在住の方（国籍不問）で、「具象傾向の平面作品」を発表していることを条件とします。全国の識者（美術館学芸員、大学教授、ジャーナリストなど）が推薦する作家の中から、美術界を長年牽引してきた3人の選考委員が大賞（賞金100万円）と奨励賞（賞金50万円）を選

産経新聞社は創刊90周年の節目となる今年、優れた若手美術作家を顕彰する「絹谷幸二芸術賞」（絹谷幸二芸術賞実行委員会、絹谷幸二美術財団など主催）を創設します。日本を代表する洋画家で、文化勲章受章者の絹谷幸二さん（80）の「次代を担う新進アーティストをサポートしたい」という熱意に賛同するもので、美術界のさらなる発展に寄与する才能の発掘を目指します。



若手作家を顕彰する絹谷幸二芸術賞が、産経新聞社創刊90周年を機に新たに創設される。絹谷幸二さん（80）の「次代を担う新進アーティストをサポートしたい」という熱意に賛同するもので、美術界のさらなる発展に寄与する才能の発掘を目指します。

## 次代へ支援 第2の「安井賞」

絹谷幸二芸術賞は、平面の新たな未来を開く仕事に焦点を当て、40歳以下の活躍を応援する若手の活躍を応援するものです。絹谷幸二さんは、55年、早稲田大学理工学金属工学科卒業、富山県立近代美術学校を創立した後、平成4年から独立して国際美術館（大阪）に移り、25年からは、同館館長兼学芸員として、同館の発展に尽力されています。令和3年4月から現職。



絹谷幸二（左）と国際美術館館長 島敦彦（右）

デジタル技術がさまざまな領域文化を豊かにしている時代になって、かつて若い世代にはオーソドックスな絵画、それも人体表現を中心とした具象絵画を制作する画家たちが減ってきているように思われます。あえて挑戦するならば、長い歴史をもつ絵画という形式、絵画ならではの制作のプロセスの奥の深さ、そのプロセスのなかからかみゆき、いややうであるがゆえに、より根源的な創作意欲を湧かせること、これを目的としています。意欲に燃やした若者たち

## チャレンジ精神 大いに期待

のチャレンジ精神が従来は見えなかった。たまたま絵画の可能性を切り開く新鮮な息吹を私たちに伝えてくれることを期待しています。たまたま、あきろ、昭和22年、京都市生まれ、国立国際美術館館長、京都国立近代美術学校校長を経て、現職、埼玉県立近代美術館長、草間彌生美術館館長などを兼任。専門は現代美術、ベネチアビエンナーレ日本館ディレクター、あいちトリエンナーレ芸術監督、詩人としては萩原朔太郎賞などを受賞。



絹谷幸二（左）と国際美術館館長 島敦彦（右）

## 絹谷幸二芸術賞創設

## 「具象」の可能性に光を

絹谷幸二芸術賞 洋画家で令和3年に文化勲章を受章した絹谷幸二氏が若手美術作家を支援したいとの思いから創設。40歳以下の美術作家を対象に美術関係者からの推薦をもとに候補者を選出し、絹谷幸二氏、島敦彦氏、建島哲氏の3名で最終選考を実施、大賞1名（賞金100万円、副賞）、奨励賞1名（同50万円、副賞）を決定する。絹谷幸二芸術賞実行委員会、産経新聞社、一般財団法人絹谷幸二美術財団主催。チャーム・ケア・コーポレーション共催、スクラレパス協力。詳細は同賞ホームページにて。 <https://kinutani-award.art/>

絹谷幸二さんは、55年、早稲田大学理工学金属工学科卒業、富山県立近代美術学校を創立した後、平成4年から独立して国際美術館（大阪）に移り、25年からは、同館館長兼学芸員として、同館の発展に尽力されています。令和3年4月から現職。

## 若者の創作を応援

絹谷幸二、芸術賞の創設。絹谷幸二さんは、55年、早稲田大学理工学金属工学科卒業、富山県立近代美術学校を創立した後、平成4年から独立して国際美術館（大阪）に移り、25年からは、同館館長兼学芸員として、同館の発展に尽力されています。令和3年4月から現職。



賞創設への意気込みを語る絹谷幸二さん（東京都世田谷区）（絹谷幸二撮影）



アトリエで制作する絹谷幸二さん（東京都世田谷区）（絹谷幸二撮影）

きぬたに・こうじ 昭和18年、奈良県生まれ。東京芸大大学院修了。イタリア留学中にアプレスコ（壁画技法）を学び、古典技法を生かした独自の絵画表現で49年、安井賞を受賞した。色鮮やかでエネルギッシュな画風にはファンが多く、東京芸大や大阪芸大で後進の指導にも尽力。平成26年に文化功労者、令和3年に文化勲章を受章。日本芸術院会員、独立美術協会会員。

絹谷幸二さんは、55年、早稲田大学理工学金属工学科卒業、富山県立近代美術学校を創立した後、平成4年から独立して国際美術館（大阪）に移り、25年からは、同館館長兼学芸員として、同館の発展に尽力されています。令和3年4月から現職。

